

第3節 世界にはばたく人づくり

“風”^{（かせ）}をおこす ～ここから世界へ、さらなる夢と希望を実現するために～

経済や文化など、あらゆる面での国際的なかわり合いが強まる中で、人々の活躍の舞台は世界へと広がっていく。こうした地球規模での交流は、地域に新しい風をおこし、創造や飛躍の原動力となっていくことが期待される。

本県は、歴史的、地理的な背景もあり、どちらかと言えば堅実なイメージが強かったが、今後の「知恵の時代」では、夢と希望の実現に向けて、地球規模で考え、行動し、革新的な歩みを切り拓いていくことができる人を育てることが必要である。

このため、日本人としてのアイデンティティ

を持ち、世界の人と共に歩み行動できる人、そして知識のみならず創造性や課題解決能力を備え行動力に満ちた人、あるいは学術や科学技術などの分野で世界に通用する人など、これからの我が国に必要とされる人材の育成を推進する。

我が国のみならず外国の伝統・文化を尊重する中で、内面から新しい風をおこし、これからの本県の活力と美しさを支え、そして自ら創造・発信できる、「世界にはばたく人づくり」を目指す。



小山バルーンフェスタ

1 国際感覚豊かな地球人づくり

課題と目指す方向

今後、様々な分野で国際化が急速に進展し、日常生活においても世界とのつながりを意識することが必要になってくる。この中で、私たち一人ひとりにも、世界的・国際的視野からものごとをとらえ、外国の人々と共に考え、暮らしていける「地球人」としての自覚と行動が求められるようになる。

こうした中で、世界を舞台に活躍できる人材を育てていくためには、コミュニケーションのための外国語能力等に加え、我が国や諸外国の文化・伝統を尊重し、日本人としての誇りと

アイデンティティを持って行動できる精神を育成していくことが必要となる。

このため、学校教育においては、他国の文化も理解し尊重しながら、共に21世紀を生きていくための資質や能力をはぐくむための外国語教育や国際理解教育の一層の充実を図っていく。

また、地域においても、外国人と相互に理解し合いながら、共に暮らしていくための内なる国際化や国際感覚の醸成のための取組を進める。

取組の方向

○学校における国際理解教育の推進

国際感覚豊かな人材を育成するため、学校教育の各段階で、国際理解教育のより一層の充実を図るとともに、外国での生活体験や外国人との交流を積極的に進め、実体験を通じた国際理解を進めていく。

また、学校外でも、児童生徒が国際交流活動等に積極的に参加して異文化への理解を深め、共生意識、国際貢献への意欲などを高める機会を充実していく。



国際交流員による授業（市貝町 赤羽小学校）

- 地域の交流団体と連携した国際交流活動の推進
- 帰国児童生徒、外国人児童生徒、日本人児童生徒が共に学べるインターナショナルクラスや*インターナショナルスクールの設置
- 県及び市町村が一体となった留学生受入れの体制づくり

など

【インターナショナルスクール】日本においては、外国の教育カリキュラムで運営される学校。主に日本人を対象とするものや、外国人の子供を対象とするものがある。まだ日本ではわずか数校しか設置されていない。

○地域における国際理解の促進

今後、地域における外国人の居住者や来訪者はさらに増加していくことが見込まれ、言葉や生活習慣の違いから、職場や学校、地域において摩擦が生じることも予想される。

そこで、一人ひとりが、外国人と隣人として互いに協調して暮らしていけるような国際感覚を日常生活の中で身につけ、相互理解を深められる機会の充実を図っていく。

- 留学生を含めた在住外国人、海外協力活動・海外勤務経験者、民間の国際交流団体等による国際理解学習の充実
- アジア・アフリカ地域など欧米以外の地域についての国際理解の促進

など

○外国語教育の充実

国際的な交流の増加やインターネットの普及などにより、外国語教育、特に英語教育への社会の期待や要請は日々高まりを見せている。

そこで、外国語によるコミュニケーション能力及び国際感覚を身につけた人材を育成するため、学校教育においても実践的コミュニケーション能力の基礎をつちかう外国語教育の充実を図っていく。

- 各学校段階を通じた一貫性のある英語教育の推進
- 英語指導法の改善、外国語科教員の資質向上（コミュニケーション能力）
- 英語以外の外国語学習の機会の充実

など

2 地球に風をおこす人材づくり

課題と目指す方向

今後の「知恵の時代」において重要となる基礎科学の振興、独創的な技術や経営モデルの開発などのためには、マニュアルや既成の知識に頼るだけでなく、新たなものを創造する能力や課題解決能力、他者とのコミュニケーション能力などが重要になってくる。

そこで、これらの能力を自ら伸ばして、堅実な県民性という殻を破り、新たな分野に果敢に挑戦したり、革新的な技術を開発したりすることによって、地域を越え、日本を越え、世界を目指す志をもった人材の輩出が求められる。

このため、個々人の潜在能力を最大限に引き出し、独創性や柔軟性をも併せ持つことができるよう、それぞれの学習意欲や能力に応じた教育や、高度な高等教育、科学技術教育などの充実を目指す。



ロボットコンテスト（宇都宮工業高校）

取組の方向

○課題解決能力や創造力、チャレンジ精神、コミュニケーション能力などの重視

これからの変化の激しい時代を、主体的、創造的に生きていくためには、自ら考え、判断して行動できる資質や能力の育成が必要である。

このため、学校教育においては、知的好奇心を喚起するとともに、自ら学び自ら考える力を育成することを重視した教育を行い、根気強く学ぶ態度を養って、自分の考えを持ち、論理的に意見を述べる能力や、目的や場面などに応じて適切に表現する能力、互いの立場や考えを尊重しながら伝え合う力などの育成を図っていく。



高校生によるディベート・コンテスト（宇都宮女子高校）

- 理数部、社会部等の文化部活動の重視・振興
- 探究活動や表現活動を重視した教育活動の展開
- 学校における発表や意見交換の機会の充実

など

○「学ぶこと、活動すること」の楽しさを教える

児童生徒が自分の興味・関心・能力等に応じた学習を選択し、より専門的な分野や社会で活躍できる力を身につけるためには、学習における感動や達成感が必要である。そのため、学校においては、「分かる授業」、「工夫された授業」、「一人ひとりを大切にしたきめ細やかな授業」を日々展開していくことが重要である。

そこで、疑問の目や感動の心を育てるための教材開発、教員の資質や専門的能力の向上はもとより、地域社会の専門家による指導についても一層充実させていく。

- 小学校における教科担任制の充実
- *学校ボランティアのシステム化
- 高等学校と大学の一層の連携

など

【学校ボランティア】 地域の人などがボランティアとして授業や学校行事などに協力すること。

○職業意識やチャレンジ精神をはぐくむ

労働省の平成11年度の調査によると、新規高卒者の47%、新規大卒者の32%が、就職してから3年以内に離職している。また、学校を卒業して進学も就職もしない、いわゆる「無業者」の割合は、高卒で10%、大卒で22%に及び、この数字はバブル崩壊後の平成4年以降、毎年上昇している（平成14年度文部省調査）。

このような状況の中にあり、児童生徒に望ましい勤労観・職業観を育むため、中学生の職場体験学習、高校生の就業体験（インターンシップ）の機会の一層の拡大などが求められている。

特に、経済活動の実際を擬似的に体験できるシミュレーション授業については、起業家を育成する観点からも必要であり、それにより、実社会や職業に対する興味や経済活動に対する専門的知識等を深め、職業意識やチャレンジ精神を育成していく。



インターンシップ（ボール盤作業）

- 職場体験学習、就業体験等による職業意識、チャレンジ精神の育成
- 専門高校における専門教育の一層の充実

など

○創造力に満ちた「個」の育成と、多様な個性の尊重

これからの社会では、主体的に考え行動できる、創造力や独創性に満ちた「個」の育成は重要な課題である。

そのため、体験活動等を取り入れた様々な交流の推進や、学校週5日制の趣旨を活かした地域社会での体験活動への参加促進などを通して、様々な課題に対して幅広い視野から柔軟かつ総合的な判断を下す基盤となる、「課題探究能力」の育成を図っていく。

- 上級学校や研究施設等における学校外での学習機会の充実

など

○多様な選択を可能にする教育制度の検討

学習意欲や能力に応じた教育、高度な高等教育、科学技術教育などの充実により、個性や独創性・柔軟性、高度な専門性を有する人材の育成が求められている。

一方、不登校の児童生徒や高等学校を中退した子どもたちが学校や社会に戻ろうとしたときに、スムーズに対応できる多様な学びの場を整備していくことも必要である。

このため、高等学校入試における学校ごとの独自選抜や受験者に見合った適切な選考方法の検討を進めるとともに、児童生徒のやる気を伸ばしていけるような教育システムの積極的な導入を図っていく。

- 学習意欲の向上や習熟度への対応（*習熟度別学習、学校別独自入試など）
- *中高一貫教育校、*単位制高校等特色ある多様な学校の設置
- コミュニティスクール等の研究

など

【習熟度別学習】各教科・科目の指導に当たり、生徒の学習内容の習熟の程度などに応じて弾力的な学級の編成を工夫するなど適切な配慮をすること。

【中高一貫教育】中学校と高等学校の教育を一貫して行うもの。中学と高校が一つの学校となった中等教育学校のほか、中学と高校が併設される場合や中学と高校が連携して教育を行う場合がある。

【単位制高校】進級に必要な単位を特に定めず、規定の単位以上を取得すれば卒業を認めるという高校。

3 高等教育の充実

課題と目指す方向

県内の高等教育機関では、少子高齢化、高度情報化、国際化等、様々な社会変化に対応した学術研究の高度化、学際化が推進されているが、これと並行して、人材育成（学生教育）や、地域への貢献活動も進められているところである。

また、このような社会変化は、個々人の生活においては、職業上の知識・技術を継続的に習得する必要性の高まりや、ライフスタイルの多様化となって現れてきており、生涯学習への多岐にわたるニーズを生みだしている。

このような時代の潮流の中で、大学における社会人再教育が一層求められ、また、国立大学の独立法人化に見られるように、運営面の自立性拡大も求められている。こうした「知恵の時代」に向けた動きの中で、今まさに社会が求める人材育成のために、大学が有する“知”の集積を活用する機会が訪れている。

県内の高等教育機関がこれまで蓄えてきたノウハウと地域の持つ潜在力、そしてやる気のあつた人材をうまく組み合わせることによって、新たな分野における先進的な取組を進めていく。



大学の講義風景（那須大学）

取組の方向

○社会の要請にこたえた人材の育成

これからの高度化・複雑化が予想される時代においては、幅広い教養と高度の専門性の双方に裏付けられた課題探究・問題解決能力を備え、世界を視野に入れて活躍できる人材が、社会の各方面から求められることになる。

今後の高等教育機関には、学生の能力・適性に応じたきめ細かい教育プログラムと透明・厳格な評価システムの下、社会の要請にこたえ、国際的にも通用する人材を育成していくことが求められている。

また、これらの人材を育成していくため、経済的な理由により修学が困難な者に対する支援策を進めていく。

- 授業計画の公表、大学評価システムの構築、学生による授業評価の反映
- 大学相互間の講義公開、単位交換
- 学際的、横断的な教育課程の編成
- 奨学金制度の充実

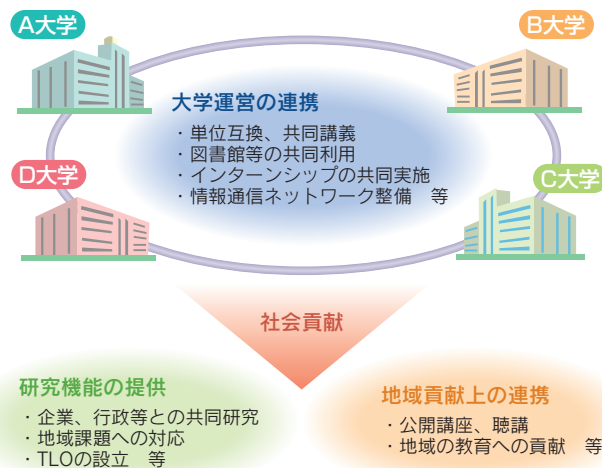
など

○地域社会への貢献

本県が有する地域特性を十分に発揮するため、高等教育機関が保有する人的資源・研究資源を地域社会に活かしていく必要がある。

また、地域産業界との共同研究や情報交換などを通して、高等教育機関に対する地域の期待・需要を学生が認識することは、専門的職業人の養成にもつながっていく。

大学コンソーシアム（連携機構）のイメージ



- 研究成果の地域還元
- 実体験による学生の職業観の育成
- 地域特性を活かしたまちづくりの提案
- 地域の大学の連携・協力による多様な地域貢献

など

○社会の変化への柔軟な対応

高等教育機関では、高度な専門性を背景に、社会の多様な要請に直結した公開講座や社会人大学院の運営など、キャリアアップ教育をより一層充実させるとともに、様々な学習ニーズ、ライフスタイル、産業構造の変化に応じた学習機会を提供していくことも必要である。

そこで、今後は、公開講座の実施主体である高等教育機関、県、市町村が相互に連携し、情報交換や機能分担を進めていく。

- 職業上の実践的知識・技術に関する公開講座、社会人大学院・*法科大学院などの設置、充実
- 例えば先端科学技術や国際観光など、地域のニーズや産業構造の変化に応じたコースの設置
- 学習ニーズ、ライフスタイルに応じた公開講座の運営

など



宇都宮大学による公開講座



【法科大学院】法曹関係者の養成機関として、平成16年度から開設が予定されている。